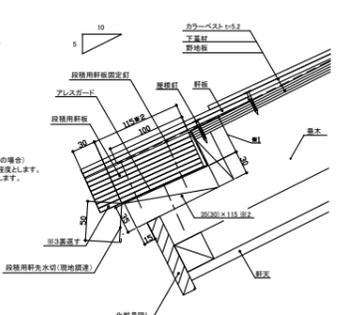
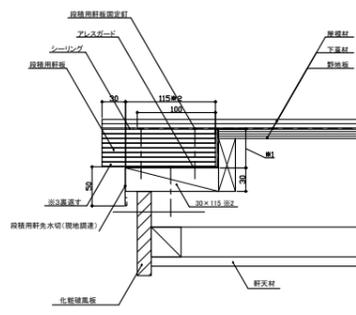
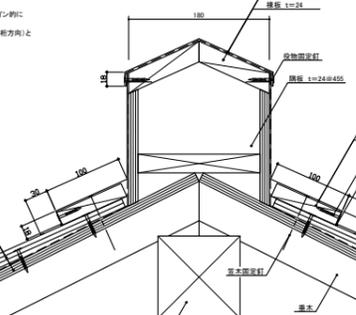
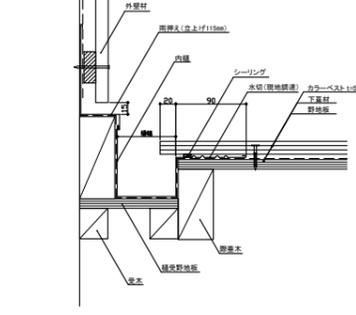
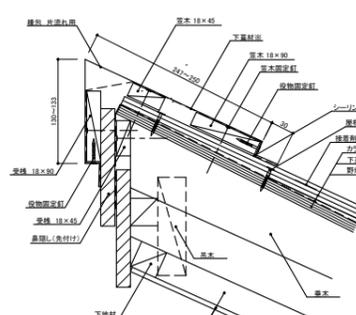


グランネクスト/カラーベスト 5.2mm厚品 / 木造 参考納まり図【特殊納まり】

※掲載している図は、あくまで参考図です。弊社では躯体・下地等の仕様についての相談はお受けいたしかねます。
 (躯体・下地の仕様については、元請様と相談していただくようお願いいたします。)
 ※取付け手順に注意して、工程管理をお願いします。

| 1 軒先部:段積み施工 仕様 | 2 けらば部:段積み施工 仕様 | 3 平棟部:箱棟 仕様 | 4 壁取合い部(流れ方向):樋 仕様 |
|---|--|---|---|
| <p>段積み施工は、段積用軒板を、棟筋と釘でしっかりと固定します。軒板がした上層を、野地板上層と重ね、その上カラーベストを軒先から突き上げていきます。軒先部では、段積用軒板のカラーベスト本体との間に隙間が空かないように、下地の軒先板を5mm程度突出させます。垂木寸法等に注意し、段積用軒板の露出部分に、必ず下地がないように調整します。</p> <p>※1 段数×5.2mm程度(コロアールの場合) ※2 段積用軒板の長さ=30mm程度とします。 ※3 軒下から見える釘は裏返しにします。</p>  | <p>軒先部と同じく段積用軒板をしっかりと固定します。段積み部分の突出は、30mm程度とします。けらば部のカラーベストは棟筋で固定していただき、段積用軒板の上段と野地板間に、必ず下地がないように調整します。</p> <p>※1 段数×5.2mm程度(コロアールの場合) ※2 段積用軒板の長さ=30mm程度とします。 ※3 軒下から見える釘は裏返しにします。</p>  | <p>瓦を使用しないで、棟をデザイン的に自立させる方法。カラーベストは壁との取合い(桁方向)と間に納まりで施工します。</p>  | <p>流れ部の壁との取合い部に樋を納めた納まり図。屋根の流れ部分が多く雨水が多い場合には、雨押え板による排水を行い、樋を納めた方が好ましいといえます。この工法は軒板での排水処理を考慮して頂く必要があります。</p>  |
| <p>5 片流れ棟部:二段鼻隠し 仕様</p> <p>外壁面より突出した片流れの棟で、鼻隠しを野地板にするため、鼻隠しを2段にして重ね張りし、垂木下面に天板材を張った例。</p> <p>※垂木が設置されていない場合のみ必要</p>  | | | |